

4 学位授与の方針

学校教育学研究科教育実践探究専攻では、現代的な学力の育成、多様な教育ニーズへの対応、今日的な学校運営の充実という3つの教育課題に応じて、高度な専門性と実践的な指導力を備えた、学校変革を担うリーダー教員、及び学校教育課題を的確に把握できる新人教員の養成を目的としている。

目的に応じて、以下の学習成果の達成を学位授与の方針とする。

- ① 今日的な教育課題の探究を継続的に行うことができる資質・能力。
- ② 今日的な教育課題の探究に必要とする理論的な考察を行う資質・能力。
- ③ 今日的な教育課題の探究に必要とする実践を新たに試みる資質・能力。

5 教育課程編成・実施の方針

【教育課程編成・実施の方針】

1) 教育課程の編成学位授与の方針①～③の達成のために、第1に「課題探究」、第2に「理論と実践の往還」の2つをカリキュラム原理とし、以下の授業科目によって、教育課程を編成する。

- ①課題探究の具体化のために「目標設定確認科目」、及び「目標達成確認科目」を配置する。
- ②理論的な考察のために「共通科目」を配置する。
- ③新たな実践を試みるために「実習科目」を配置する。
- ④理論的考察と実践の試みを総合するために「コース専門科目」を配置する。

2) 教育の実施体制

- ①各学生に応じて1年次より主指導教員、副指導教員を配置し、適切な指導を行う。
- ②教員は、学生との面談による履修指導を行い、研究指導実施報告を行う。
- ③定期的に、教育課程の編成・実施に関する課題分析、及びその改善について検討・実施する。
- ④シラバスを明示し、授業科目の目標、内容、及び成績評価について履修学生に周知する。
- ⑤各学期末には学生による授業評価アンケートを実施し、その結果に応じて授業改善を行う。
- ⑥授業科目の関連や難易度を表現するコースナンバリングを行い、カリキュラム構造を明示する。

3) 教育の実施方法

- ①授業科目の履修を容易にするために、適切なガイドライン（履修案内等）を提示する。
- ②定期的に、教員は履修指導や実習指導を行う。
- ③必要な場合、教員はティーチング・ポートフォリオの教育理念と教育方法を学生に説明する。
- ④実習校・関係機関と協議し、履修学生の課題に応じた実習計画を作成し、個別の指導を行う。
- ⑤学修効果を高めるため、理論科目と実習科目の履修時期等を調整する。
- ⑥学生の希望に応じて、教育実践に関する研究論文作成の指導を行う。

4) 学修成果の評価

- ①授業科目の学修成果を評価するために、授業科目担当教員は、測定する到達目標の特性に応じて、

筆記試験，レポート（論文），作品，発表，活動内容等により多面的評価を行う。

②個別の授業科目の成績評価方法については，シラバスに明示する。

③成績評価は成績評価基準に基づき判定する。

評語 (評価)	評点	評価基準	合否判定	成績評定 (GP)
秀	90点以上 100点満点	学修到達目標を十分に達成し，極めて優秀な成果を上げている。	合格	4
優	80点以上 90点未満	学修到達目標を十分に達成している。		3
良	70点以上 80点未満	学修到達目標をおおむね達成している。		2
可	60点以上 70点未満	学修到達目標を最低限達成している。		1
不可	60点未満	学修到達目標を達成していない。	不合格	0

※上記により評価が難しい授業科目は，合又は不可の評語によって表し，合を合格とし，不可を不合格とする。

④教育課程を通した学修成果を，実践研究報告書及び各授業科目の成績を用いて総合的に評価する。

⑤成績評価の結果は，評価分布等を使用して定期的に点検を行い，必要に応じて教育方法等の改善を行う。